



声かけから始まる

# 笑顔の町・松

松山市立番町小学校  
5年  
新田 小真一郎  
令和2年8月25日

僕の町は、



があふれている。

### <研究の動機>

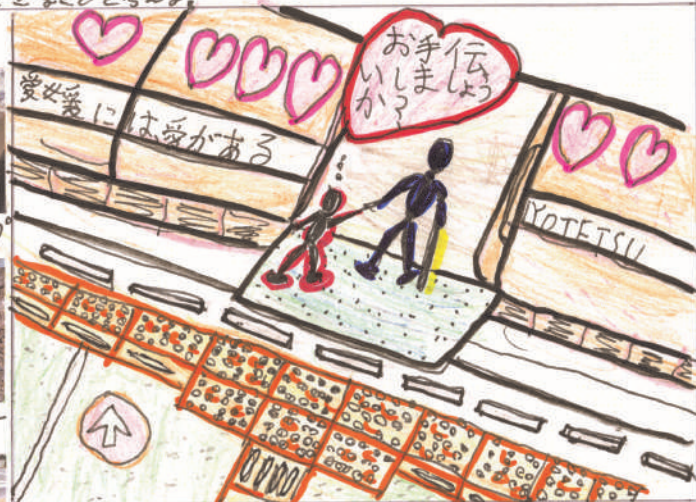
ある日、学校からの帰り道、松山市駅のホームで車いすに乗った男の人を見かけました。僕は、そのまわりの人に続きで車いすに乗って乗車して行きました。電車を待っている時、その人のまわりには言葉で寄りかかっていたので、もしかすると困っているのではと思い「ドキドキ」としながら近寄って行くとい僕の様から「お手伝いしようか」と駅員さんが、やっとならでスロープ(ラック)を使って手ぎわよく電車に乗せてあげました。それをみて見ていた僕は、その場で立ちすくむことになりました。その後、電車の中で僕にできることは、なかったのだろうか？と反省しました。駅周辺には、体の不自由な人の困っている人がたくさんいます。僕や僕達にできることを考えて、笑顔があふれる松山になってほしいと思います。今、僕にできること。まずは、相手の立場や気持ちを感じ実際に自分で、体験して、実行していくことだと思いました。

### <研究の内容>

- ・市駅周辺と古町駅の設備を調べてみる。
- ・体の不自由な人になり、体験してみる。
- ・自分にできることを考える。

### <研究の実際>

体の不自由な人のための設備は、ここに！



### <自分にできること>

松山市駅や古町駅にいい設備が整っていたけれど、実際に自分が体験してみても、まだまだ不十分だと思ったので、古町駅の車いすの車いすの中川さんをたずねてお話をしました。設備に関しては足りない所がまだまだあるけれど、実際には高額の設備投資があるので、またそこまですべてではないのが現状です。だから、それまでの間は、まずは体験したことに基づいて、自分にできることを見つけて実践していくことが、大切だと感じました。また、視覚障害の人にもお話をすると、自動販売機には、何が売られているのかわからないし、点字ブロックの上にお店の看板や自動車がおいであったり、押しボタンの上に物を置かれていることも聞きましたので、注意して、その人達がスムーズに歩行できるように気を付けて歩きたいと思いました。

これだけの設備が整っているのであれば大丈夫!? ダイソーで、「アイマスク」・「つえ」を購入し、弟と祖母とび公道を実際に歩いてみました。



### <研究の結果>

体の不自由な人の為に自分にできることは、まずは、自分からできることから、声をかけてあげることから大切です。目が見える人から歩み寄り、あしが弱者の人を支えることが、笑顔の町、松山を盛り上げる第一歩につながるということに気づきました。僕から友達→兄弟→家族→先生→学木交→中高大へつながり、松山の中心地である松山市駅が、心あふれる愛あふれる町になれるように伊予鉄道馬車線と一歩を、声かけ運動をしたいと思います。

